

目次

はしがき

物理屋の物の考え方

一物理屋の自然像	三
ルール	四
省略	七
物理と化学	一〇
素粒子	一三
鏡に映した世界	一六
物理的世界像	一九
科学と抽象	四六
物理学者の自然を見る眼	五七
過去と未来と現在と	七三

力学の習い方、教え方	二〇八
科学教育と人間形成	二一九
数裏仮学序説	二三四
自然現象を数学的に把握すること	二三九
科学技術の進歩と数学教育	二四五
雑 ² (32=3x3)	
日本の近代化と自然科学	二五三
科学者の社会的責任	二七三
研究費	二九〇
人間を不幸にする技術	二九二
技術綺言	二九五
立体化	三〇八
用語	三一一
漢字	三三四
日常言語と物理言語	三三六

物理と論理 八〇
 数学と自然 八九

人間の機械観

機械と人間 一〇一
 機械 一〇七
 人工頭脳 一一〇
 計算機の道徳 一二三
 人間は機械か 一二四
 現代科学と人間 一三二
 計算機械研究余談 一五〇

科学教育

教科書 一五五
 高校物理教育内容の現代化 一六八
 物理学者からの数学者に対する要望 一八一

目次

あとがき.....三三

相互理解	三三〇
紙の上の科学と頭の中の科学	三三三
科学と宗教	三三七
宗教調査	三四二
余暇と哲学	三四八
神と無限	三五〇
Gruppenpest のこと	三五三
師を見ることと弟子にしかず	三五六
乗り物の中の科学	三六一
町名変更	三六四
人名の読み方	三六六
だまされる	三六八
交遊抄	三七〇
私の愛する詩文	三七二
一つの人口問題	三七三
わが愛蔵書	三七五